報告事項ア

ぼうさいこくたい2026 in 鳥取 高校生活動推進委員会等の活動結果について

ぼうさいこくたい2026 in 鳥取 高校生活動推進委員会等の活動結果について、別紙のとおり報告します。

令和８年１１月１０日

鳥取県教育委員会教育長　　足　羽　英　樹

ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取 高校生活動推進委員会等の活動結果について

令和８年 11 月 10 日
体　育　保　健　課
高　等　学　校　課

10 月 17 日、18 日に県立美術館等を中心に開催された第 11 回防災推進国民大会鳥取大会（ぼうさいこくたい）において、高校生活動推進委員会による体験型ワークショップの運営等や県内高等学校による探究学習等の成果発表を行いましたので、その活動結果を報告します。

１　高校生活動推進委員会の活動内容について

高校生活動推進委員会は、ぼうさいこくたいの開催を機に将来の防災を担う県内高校生等をはじめとする若者の積極的な参画を促し、防災力の向上に資することを目的として 10 校 12 名の高校生により立ち上げた組織であり、これまで「人と防災未来センター」（兵庫県神戸市）での防災研修や、大会に向けてリーフレット等の広報物の制作や広報活動などを実施し、大会本番でも以下のとおり様々な取組を行った。

（１）体験型ワークショップの企画・運営について

子どもたちに楽しみながら防災について学んでもらう機会とするため、本委員会で企画した２種類の体験型ワークショップを運営した。このワークショップは 100 日前イベントでもプレとして実施し、高校生のアイデアをもとに改良を加えながら準備を進めてきた。大会当日は高校生が中心となり、参加者にワークショップの意図を説明したり、小さな子どもには手伝いながら一緒に作業したりするなど来場者と積極的にコミュニケーションをとりながら、全員で協力して運営した。非常に多くの方に来場いただき、防災の大切さや日々の備えについて考えていただく機会とすることができた。

ア　防災グッズ選び

ペットボトルや非常食等の様々な防災グッズを準備し、用途や重さなどにより優先順位を考えながら防災グッズを選んでもらうゲームを実施した。一般的な防災グッズだけではなく、ぬいぐるみや絵本など子どもたちが安心したり楽しめたりするようなグッズも準備し、参加者には避難所での生活を想像しながら一人一人の状況に応じた防災リュックを作ってもらった。体験後に本委員会が制作したリーフレットやハンドタオル等の広報グッズを配布した。

＜参加者の声＞

・いろいろな防災グッズがあり、自分にとって何が必要なのか迷った。
・子ども向けに絵本やゲームなどがあってよかった。
・高校生が企画・運営していることが素晴らしいと思った。






＜委員会が制作した広報グッズ＞





リーフレット



ハンドタオル



ペットボトル



風船



ユニフォーム

イ　煙の中から脱出ゲーム

スモークテントの中を「防災グッズ選び」で作った防災リュックを背負ってハンカチ等で口を塞ぎながら低姿勢での避難をイメージしながら進むゲームを実施した。



＜参加者の声＞

・煙で思っていたより何も見えなかった。火災になったときの状況がイメージできた。
・子どもと一緒に体験した。火災になったときにハンカチを使って低姿勢で避難することを子どもに伝えることが出来てよかった。

（２）ステージイベントについて

併催イベント会場で行われたステージイベント中の「鳥取県若者団体による防災活動ＰＲコーナー」に登場し、パネルを用いながらこれまでの高校生活動推進委員会の活動内容を紹介するとともに、体験型ワークショップへの来場を呼びかけた。






（３）愛子内親王殿下との御交流について

ぼうさいこくたいに出席されていた愛子内親王殿下と県内若者が一緒に災害時の避難所運営に関するワークショップ（鳥取県版ＨＵＧ）を体験した。防災に取り組む県内の大学生の他、高校生活動推進委員会を代表して委員長が参加し、学校が避難所となった場合の避難所運営について学んだ。

（４）パネル展示について

これまでの活動内容やメッセージを盛り込んだパネルを制作し、県立美術館内のブースにおいて広報グッズとともに展示し、来場者に取組内容等を紹介した。

（５）クロージングセッションについて

大会の最後に開催された内閣府主催のクロージングセッションにおける特別企画「鳥取から未来へ向かって」において高校生活動推進委員が登壇し、高校生自身がこれまでの活動を振り返るとともに、活動を通じて学んだことや将来に向けてのメッセージを発信した。

＜主な内容＞

・災害時だけではなく、普段の生活の中での人と人とのつながりが大切だと学んだ。
・防災を特別なものとせず、日頃から備え、日常の中で少しずつ知識等を蓄えておくことが大切だと感じた。
・防災グッズも家族の状況により必要なものが違ってくる。防災は知識を学ぶことだけではなく、一人一人の暮らしに寄り添うことが大切だと感じた。
・今回の高校生活動推進委員会での活動の経験や学んだことをこれからの鳥取を担う若い世代と共有していきたい。






２　県内高等学校による課題探究等の成果発表について

総合的な探究の時間、災害に関するボランティア活動、地域貢献活動、地域と連携した避難訓練や研修の実施、防災に関連する部活動等の取組、防災に関する物品製作など、広く防災に関する各校の取組成果をパネルや成果物等による展示を行った。また、来場者に対し、生徒が自校の展示内容を解説、紹介を行った。鳥取県内の高等学校９校が参加し、延べ６００名の来場者で賑わった。

（１）各学校の発表内容

【鳥取西高等学校】

「プール内部の構造が水面振動（スロッシング）に与える影響」をテーマに、研究発表とポスター展示を行った。生徒２名が、学術的な関心を持つ来場者に研究内容を説明した。

【鳥取工業高等学校】

耐震・制震・免震に関するポスターを掲示し、それぞれの仕組みを示す模型を展示した。クイズ形式のポスターも取り入れ、来場者との活発な意見交換につながった。

【倉吉農業高等学校】

災害時に炊き出し用のかまどとして利用できる「防災かまどベンチ」について、ポスター展示を行った。平常時はベンチとして使用し、非常時には座面を外してかまどとして活用できる。かまどベンチの製作工程に加え、地域からの依頼を受けて設置し、使い方を伝える活動について紹介した。

【鳥取中央育英高等学校】

北栄町の防災と避難をテーマに、ポスター展示を行った。観光地「コナン通り」で災害が発生した際、避難場所を観光客にどのように周知するかについて、プロジェクトの成果を発表した。

【米子東高等学校】

令和７年１１月に実施した能登半島での災害ボランティア活動について、参加生徒が活動内容を報告し、ポスターを掲示した。また、令和８年に実施した米子東高等学校と能登高等学校との交流の様子を動画で紹介した。

【米子西高等学校】

「非常食」をテーマに、米子市防災安全課の協力を得て取り組んでいる研究を発表し、非常食の周知に関するポスターを掲示した。会場では、米子市が備蓄する非常食のライスクッキーや啓発用パンフレット等を配布し、ライスクッキーの感想を尋ねるアンケートを実施した。ライスクッキーは約1,000 枚を配布した。

【米子高等学校】

自然災害を身近なものとして捉えたことをきっかけに、公共施設等における避難対策や、課題解決に向けて取り組めることについて探究活動を行った。米子駅など身近な施設でのフィールドワークを通じて得られた結果を、ポスターを用いて説明した。

【米子工業高等学校】

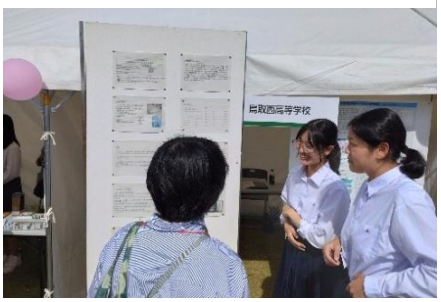
防災アドバイザーなど専門家による講義や、能登地域（穴水町・羽咋市・輪島市など）の視察を通して学んだ「被災地で聴いた生きた教訓」を発表した。日頃の地域のつながりや避難に関する課題についても紹介した。また、3D プリンターで製作した防災笛を無料で配布した。

【鳥取敬愛高等学校】

学校で取り組んでいる防災教育について、ポスターを展示した。防災につながるテーマを扱う授業を展開する「防災教育ＷＥＥＫ」を設定し、生徒・教員双方の防災意識の定着を図っていることを紹介した。

（２）当日の様子

鳥取西　ポスター展示の様子



鳥取工業　ポスター展示の様子



鳥取工業　模型を使った説明



倉吉農業　ポスター展示の様子



鳥取中央育英　ポスター展示の様子



米子東　ポスター展示の様子



米子西　ポスター展示の様子



米子西　配布した非常食



米子　ポスター展示の様子



米子工業　ポスター展示の様子



米子工業　配布した防災笛



鳥取敬愛　ポスター展示の様子



（３）参加生徒の感想

・自分たちの研究を伝え、関心を持ってもらったり、評価してもらったりしたことで、伝えることの大切さを実感できた。
・来場者からアドバイスをいただき、新しい視点を得ることができた。今後の研究に生かしていきたい。
・企業の方と意見交換をすることで、課題を再発見できた。企業と連携できれば、研究をさらに深めたり、次の学年へ活動を引き継いだりできると感じた。
・当初は研究内容を一方的に説明していたが、来場者と対話しながら進めることで、伝えたいことがより深く伝わると感じた。
・備蓄クッキーを知らない人が多いことに気づいた。幼い子どもがおいしそうに食べる姿を見て、大人にもおいしく食べてもらえると感じた。災害時に気持ちを温めてくれる食品の大切さを学んだ。



